

# 一般環境中(水質)の内分泌かく乱化学物質等調査結果

環境局環境保全部環境保全課

電話 245-5141 内線 2728

## 1 目的

内分泌かく乱化学物質は、微量の採取によっても人体等に影響を及ぼす可能性が指摘されていることから、科学的に未解明な部分が多いものの健康影響への未然防止の観点から対応することが必要であるため、市内におけるその存在状況を把握するとともに、今後の基礎資料を得ることを目的に調査を実施した。

## 2 調査日

平成 24 年 12 月 3 日

## 3 調査方法

外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル(水質・底質・水生生物)(環境省)に従い調査を実施した。

ただし、*o,p'*-DDT については、モニタリング調査マニュアル(環境省)に基づき実施した。

## 4 調査結果

(1) 表 1 のとおり

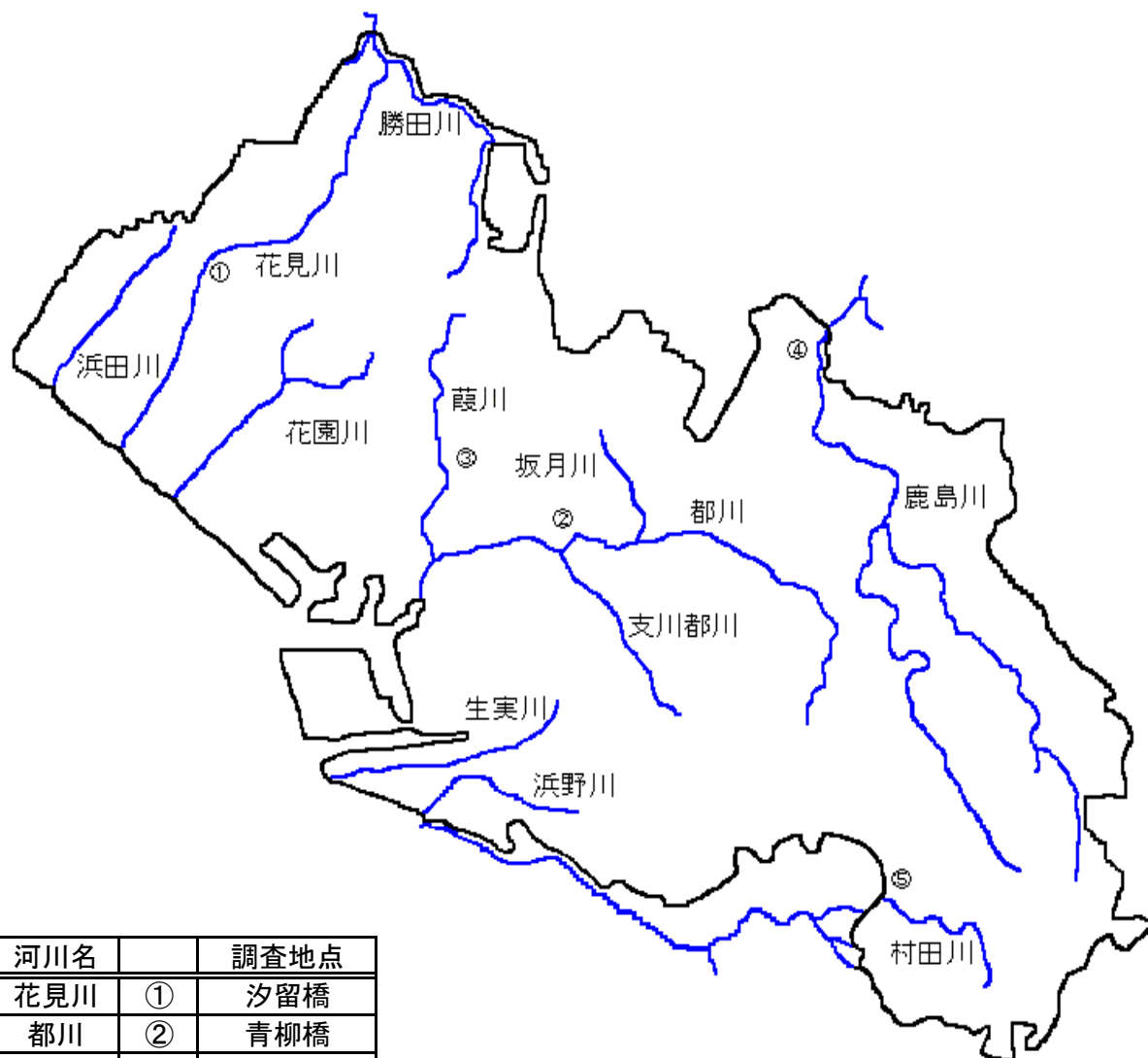
## 5 調査結果の評価

(1) すべての項目について、環境省がこれまで実施した全国調査結果の範囲内であった。

(2) ノニルフェノールは全地点で環境基準(2 μg/L)以下であり、水生生物に対する予測無影響濃度(0.21 μg/L)以下でもあった。4-*t*-オクチルフェノール、ビスフェノールAについて、全地点で水生生物に対する予測無影響濃度(それぞれ、0.48 μg/L、11 μg/L)を下回っていた。



一般環境中(水質)の内分泌かく乱化学物質等調査地点



河川名		調査地点
花見川	①	汐留橋
都川	②	青柳橋
葎川	③	都賀川橋梁
鹿島川	④	下泉橋
村田川	⑤	高本谷橋